



ワイヤでつるしたバックホーに乗り、急斜面を探索する土木作業員。慎重で根気強い作業を強いられている

岩手・宮城 内陸地震

不明夫婦の搜索再開

栗原 金属反応個所を掘削

栗原市と宮城、山形両 同正花山湯浜で、岩手・宮城内陸地震で、行方不明夫婦の搜索を再開した。搜索は2008年7月以

来、2年ぶり。搜索は24日まで行われる。行方が分からないのは、農業高橋伸好さん(不明当時56)と妻美也子さん(同50)。地震の日、秋田方面に山菜採りに出掛け、乗っていたとみられる軽トラックが本震の後、花山湯浜の国道398号で目撃された。その後の余震で土砂崩れが起これ、高橋さんの車を含めろ台が巻き込まれたとみられている。午後1時に始まった搜索には、栗原市の佐藤勇市長や金山町の鈴木洋町長をはじめ、関係自治体や宮城県警の関係者、昨年8月に金属探査を行った東北大の佐藤源之教授ら計約50人が参加した。現場は国道398号直下のがけにあるため、ワイヤでつるしたバックホ



ーを使用、東北大グループが衛星利用測位システム(GPS)と金属探知機で調べ、金属反応が強かった3カ所をきむエリア(幅約10、長さ約80)を上から掘削し始めた。搜索作業を行う宮城県によると、最大傾度40度の急斜面で危険を伴ったため、1日7、8日のべ

又で斜面を下りながら慎重に掘り進む。金属反応が進めたい」と話した。高橋夫妻の長男良平さんが斜面に沿って25日、30日、50日の3カ所、特に30日付近は局所的に強い反応があったため「車の可能性が高い」(佐藤教授)とみられる。今週末には25日付近に到達する見通し。佐藤市長は「必ず見つかる」と確信している。急斜面なので安全を最優先する。

現場は国道398号直下のがけにあるため、ワイヤでつるしたバックホーに乗り、急斜面を探索する土木作業員。慎重で根気強い作業を強いられている。搜索は2008年7月以来、2年ぶり。搜索は24日まで行われる。行方が分からないのは、農業高橋伸好さん(不明当時56)と妻美也子さん(同50)。地震の日、秋田方面に山菜採りに出掛け、乗っていたとみられる軽トラックが本震の後、花山湯浜の国道398号で目撃された。その後の余震で土砂崩れが起これ、高橋さんの車を含めろ台が巻き込まれたとみられている。午後1時に始まった搜索には、栗原市の佐藤勇市長や金山町の鈴木洋町長をはじめ、関係自治体や宮城県警の関係者、昨年8月に金属探査を行った東北大の佐藤源之教授ら計約50人が参加した。現場は国道398号直下のがけにあるため、ワイヤでつるしたバックホー